

第2章 まちづくりのコンセプト

1.平塚駅周辺地区の役割

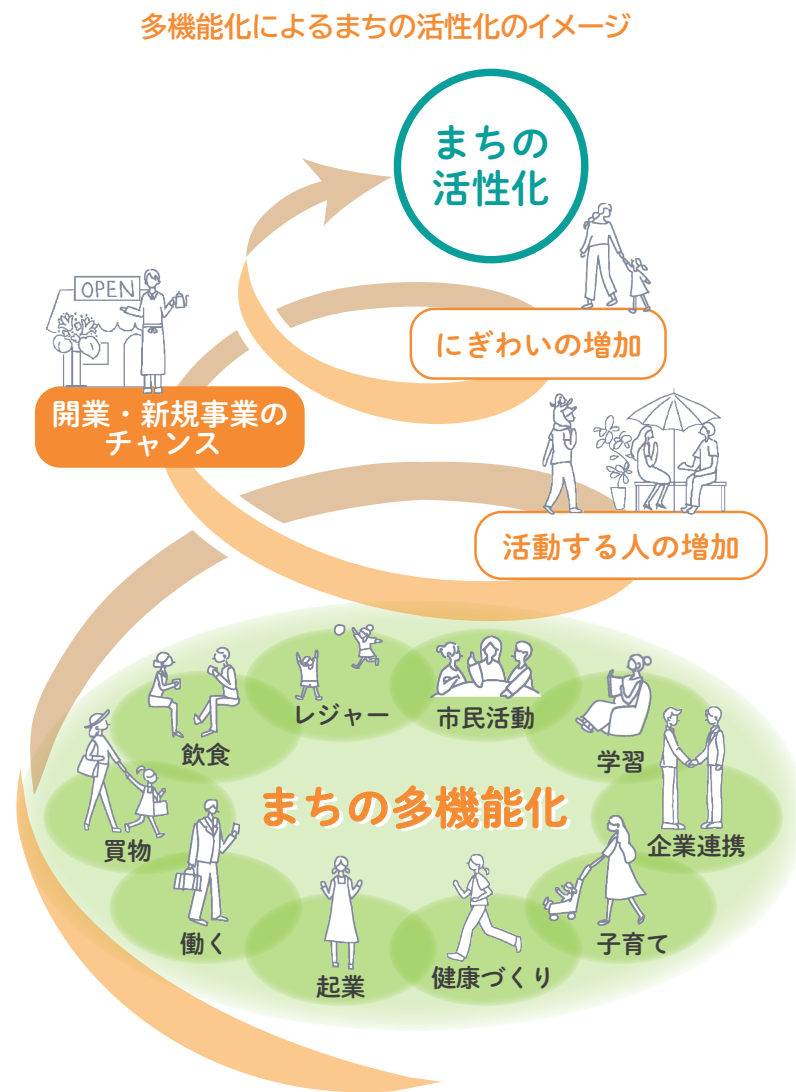
平塚駅周辺地区の商店街は、これまで市内外の買い物客などでにぎわい「商都平塚」と呼ばれるほど商業集積が進んだ地区でしたが、近年、近隣の駅周辺地区や郊外へのショッピングセンターの出店、Eコマース※の普及などの影響を受け、商業集積の優位性が低くなっています。

また、市民アンケートの結果においても、平塚駅周辺地区の商圈は、周辺の地区に限られていることが明らかになっており、商業の拠点としての役割は小さくなっています。

さらに、新型コロナウイルスの影響により生活様式が変化し、生活圏や移動範囲が身近になるなど、ライフスタイルに変化が表れているとともにマンション建設や工場の土地利用転換により、地区及び周辺での居住者が増加しています。

このような社会情勢などの変化を捉え、商業の集積、交通の利便性に加え、ライフスタイルの変化や生活の利便性の必要性を踏まえ、多機能化により、活動する人・にぎわいの増加につなげ、店舗の開業や新規事業のチャンスがあるまちにすることで、活性化を進めていきます。

この章では、社会の変化などの将来を見据えた平塚駅周辺地区の役割を示すとともに、関わる方の合言葉となるコンセプトを示しています。



2.まちづくりのコンセプト

平塚駅周辺地区をみんなのリビングに

～充実した日々の中にときめきを感じられる
それぞれが居心地の良いまちづくり～

住む人、働く人、遊びに来る人、事業を始める人など、誰もがそれぞれのお気に入りの空間や体験を見つけることができるように、平塚駅周辺地区を家の中で家族が集まり、くつろぎ、様々な目的に合わせて過ごす「リビング」に見立てます。

平塚駅周辺地区では、市民、事業者、行政が連携して多様な活動、交流が展開される空間や仕組みを地域資源[※]や多様な人材、新技術などを活用して創出することで、様々な人が快適に安心して過ごし、充実した日々の中にときめきを感じられる居心地の良い「リビング」のようなまちを目指していきます。

平塚駅周辺地区での過ごし方

『くつろぐ』



コーヒーをテイクアウトしてベンチで休憩

『遊ぶ』



チャレンジショップでクラフト体験

『集まる』



商店街のイベントに参加

『食べる』



マルシェで食事

『働く』



参照：オトナリラボ(京都市内)
託児所付のコワーキングスペース[※]で
リモートワーク